

後退する永久凍土



富士山にあるべき永久凍土がない。1998年の夏標高2,500から3,400メートルにわたって100メートルごとに地温を測る。3,400メートルまで凍土が検出されなかった。

- 1976年には、3,200メートル地点まで永久凍土があった。20年間で標高約200メートルの凍土が消失した。
- 静岡大学理学部の増沢武弘教授：2006年から山頂の植物や地温の変化を5-10年ごとに継続調査する。
- ヒマラヤ氷河の観測を続ける名古屋大学環境学研究科の上田豊教授によれば、この20年間で小型の氷河が目に見えて小さくなった。110の小型氷河の内、9割ちかくが山頂に向かい後退していた。
- 永久凍土は2年以上0℃以下に保たれる地面の環境を指しており、国際的には温度の基準のみで定義される。したがって、永久凍土中の水分状態については未だ未解明の部分が多い。
- 世界中の山岳氷河は1980年代に十年間で厚さが約2メートル薄くなったが、1990年代は2倍の4メートル。地球の平均気温は過去百年間で0.6度上がり、1990年代は、過去1000年間で最も熱い十年だった。

諏訪湖大社の御神渡り

八剣神社の湖上御渡注進録の560年の記録から、御神渡りがなかった年は、

- | | |
|---------------------------|-------------|
| ○ 江戸(1603-1867)の264年間に | 19回(1回/14年) |
| ○ 明治(1868-1912)の44年間に | 3回(1回/14年) |
| ○ 大正(1912-1925)の13年間に | 2回(1回/7年) |
| ○ 昭和戦前・中(1926-1945)の19年間に | 2回(1回/10年) |
| ○ 昭和戦後(1946-1988)の42年間に | 13回(1回/3年) |
| ○ 平成(1989-2007)の18年間に | 15回 |